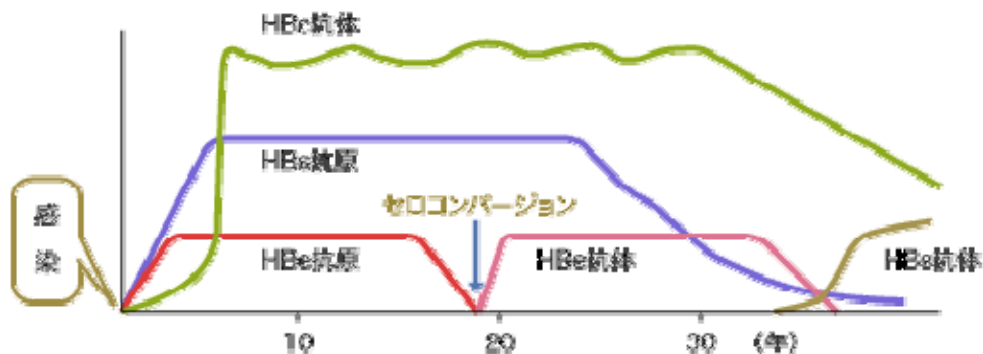
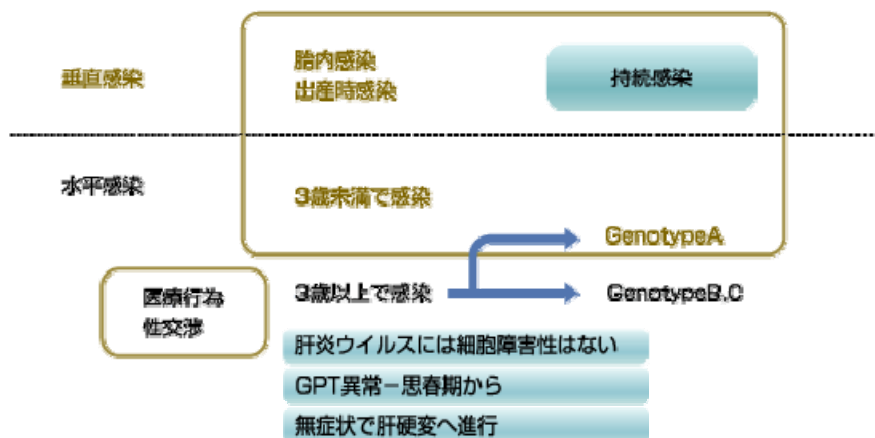


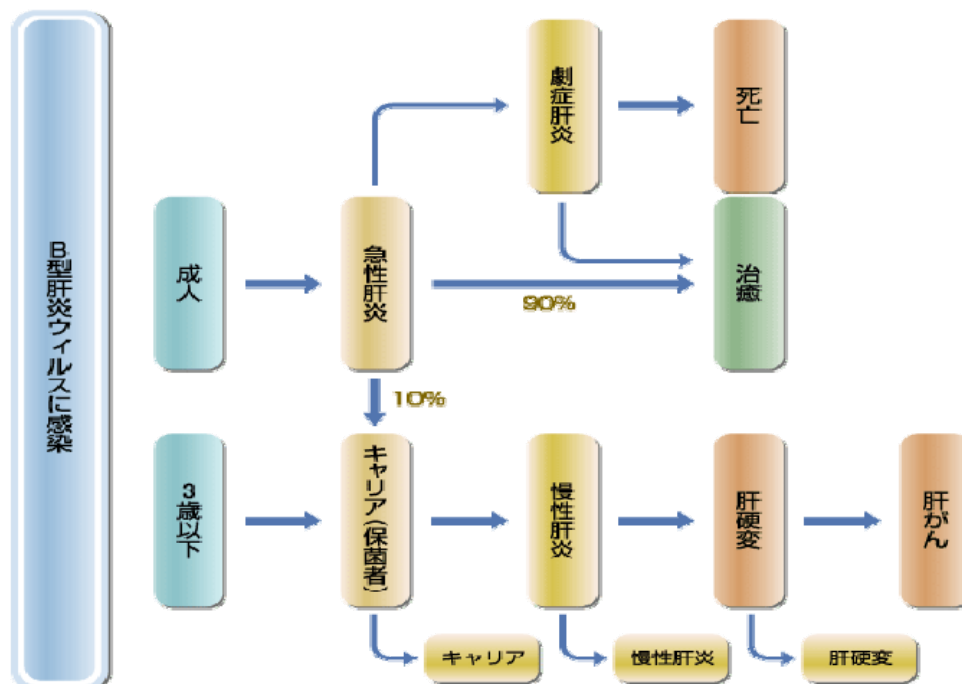
B型肝炎:HBV キャリアにおける抗原・抗体出現時期の推移



HBV の感染経路、感染時期と慢性化



感染年齢による B 型肝炎の経過の違い



山口県ではB型・C型肝炎に対するインターフェロン治療及び、B型肝炎の核酸アナログ製剤治療にかかる医療費を助成しています。

助成対象：B型肝炎、C型肝炎の根治を目的として行うインターフェロン治療とB型慢性肝炎・肝硬変に対する核酸アナログ製剤治療

自己負担限度額

階層区分 世帯の市町村民税[所得割]課税年額)	自己負担額(月額)
	B型C型肝炎に対するインターフェロン治療 C型慢性肝炎・代償性肝硬変に対する インターフェロン再治療 B型肝炎に対する核酸アナログ製剤治療
235,000円未満	10,000円
235,000円以上	20,000円

※核酸アナログ製剤治療は1年ごとに更新して受給可能です。

受給者証交付までの流れ

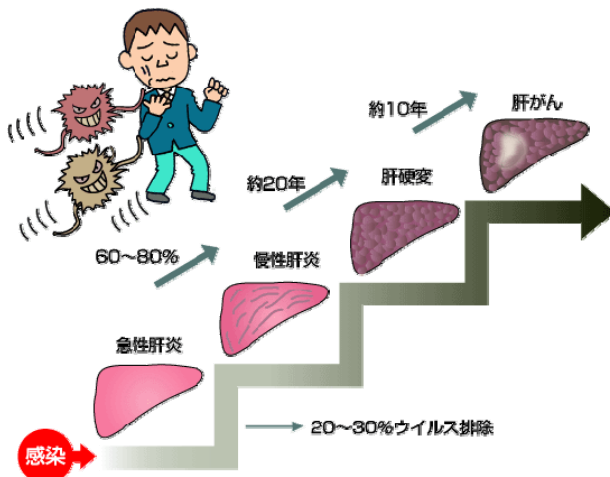


※申請のしかたについては各都道府県によって異なる場合があります。詳しくは都道府県またはお近くの保健所にお問い合わせください。お問い合わせ先については[こちら](#)をご覧ください。

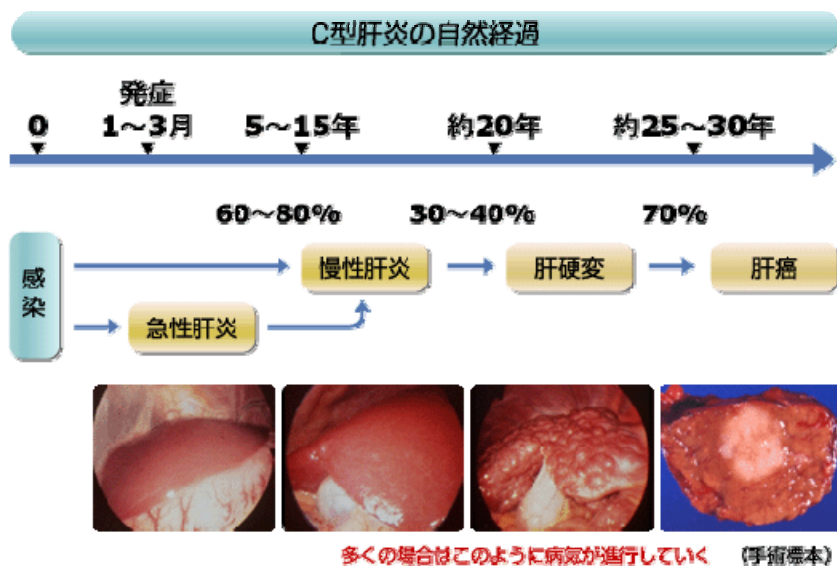
保険適用外、もしくは根治を目的としない治療については、助成の対象にはなりません。

C型肝炎

現在日本では約150万～200万人のHCV感染者。慢性肝炎、肝硬変、肝がん患者の75%がHCV感染者であり、年間3万人が肝がんにより亡くなっている。



肝臓は「沈黙の臓器」ともいわれ、肝炎になっても自覚症状はほとんどありません。そのため、気づかないままおよそ20～30年で肝がんへと病気が進んでいきます。進むスピードは個人差があり、60歳をこえると肝がんになる確立が高くなります。病気が進むと治療も難しくなります。早めに検査して、感染していないか確認しましょう。



インターフェロンの効きやすさ

ウイルス遺伝子型	1型	効きにくい
	2型	効きやすい
ウイルス量	高ウイルス量	効きにくい
	低ウイルス量	効きやすい

ペグインターフェロン/リバビリン併用療法における治療成績

